

三井金属鉱業株式会社（5706）

2017年3月期 第2四半期

決算説明会

2016年 11月 9日



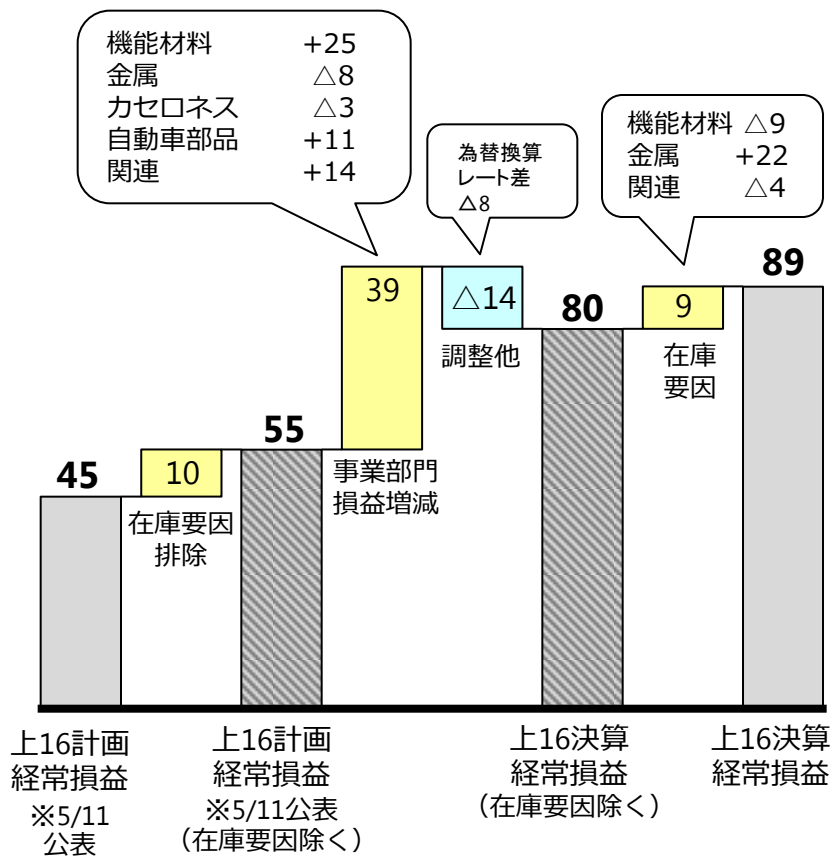
■ 上期の振り返り

【上16経常損益】

対16中計(5/11公表)

・ 16中計に対して増益

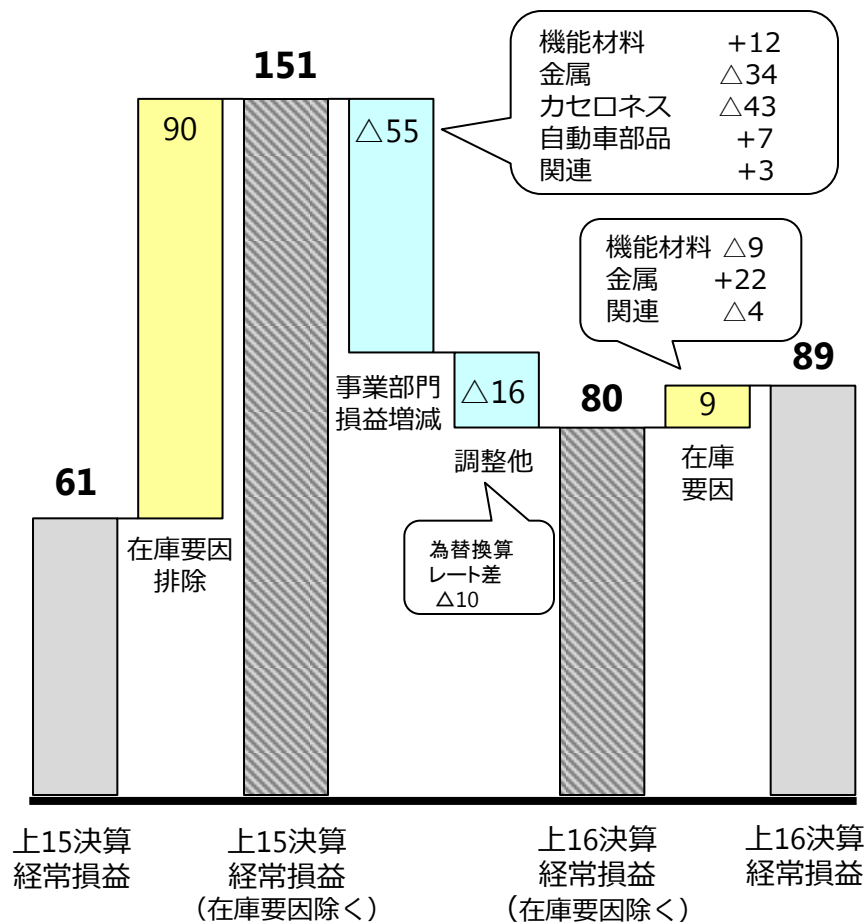
(単位：億円)



対前年同期

(単位：億円)

・ 在庫要因を除くと対前年同期を下回る

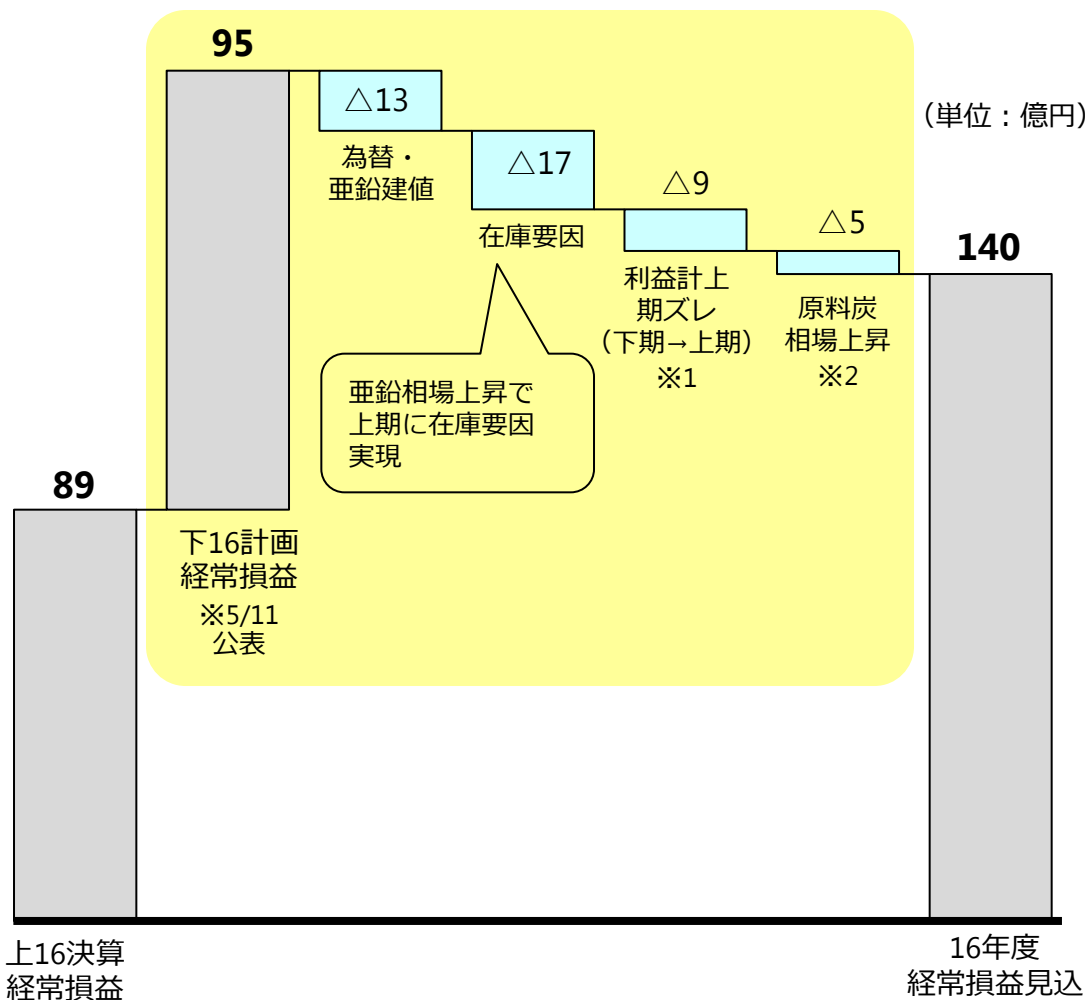




■ 今後の見通し

【通期見通し】

- ・ 経常損益は諸元見直し等を織込み、年間140億円 (5/11公表) に据え置く



※1
子会社の三井金属エンジニアリング
工事進行基準により、下期計上予定の
利益が上期に実現

※2
中国の炭鉱操業制限をきっかけに
スポット価格上昇。
10-12月価格：200\$/t
→下期200\$/tで見込む
※下期計画：100\$/t、7-9月価格：92.5\$



■ 金属事業 (1)

【金属：亜鉛価格、為替】

- ・ 亜鉛価格の上昇が円高の影響を上回り、+22億円の在庫要因発生 (P1：金属在庫要因+22)



【金属：亜鉛価格の見通し】

- ・ 大型亜鉛鉱山閉山、資源大手の鉱石減産による鉱石不足が顕在化。当面鉱石不足が継続すると見て、下16期は2,300\$/tを見込む

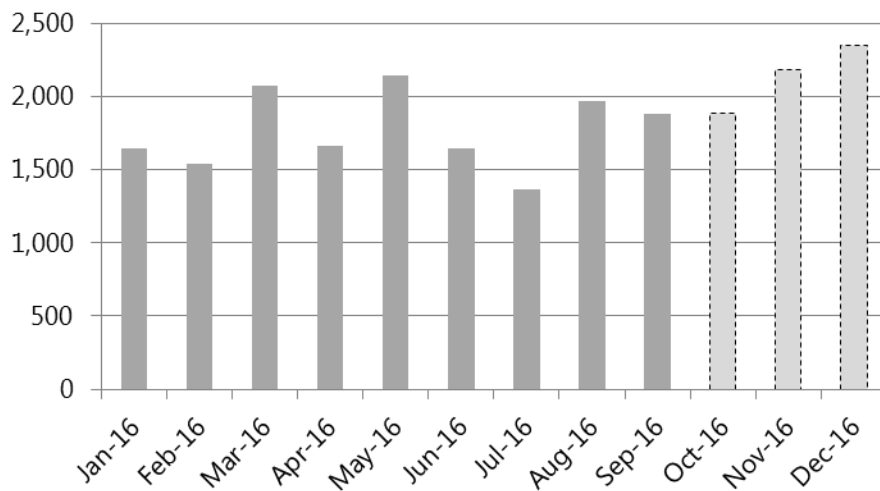


■ 金属事業 (2)

【カセロネス銅鉱山】

- ・ 7月の悪天候により、7-9月の稼働率は75%程度にとどまった
- ・ 8月からコンサルティングファームの改善プログラムに沿って、操業の安定化に向けた生産改善と一層のコスト削減を進めている

千t 粗鉱処理量実績と見通し



カセロネス銅鉱山 (当社持分 24.95%)



将来の見通しに関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、様々な既存のリスク、未知のリスク、不確定要因等を伴っているため、実際の事業環境・事業活動は、これらによる影響を受けることとなります。したがって、将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容が、実際に生じる結果と大きく異なる可能性もあります。

本資料は、将来の見通しに関する記述の中で使用されている目標、想定、期待、予測、計画、評価等の情報が正確である、または将来その通りになるということを、当社が保証したものではありません。

将来の見通しに影響を与える潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書またはホームページの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、潜在的リスクや不確定要因がその項目ですべて網羅されている訳ではありませんので、その旨ご注意ください。

本資料は、株主・投資家等の皆様に、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成しており、当社の株式の購入・売却など、株式等の投資を勧誘することを目的としたものではありません。したがって、皆様が実際に投資なさる際には、本情報に全面的に依拠して判断を下すのではなく、あくまでご自身で投資の可否をご判断くださいますよう、お願いいたします。